

令和2年度 第3回 地域ケア推進会議(ふもと) 報告書

ふもと地域包括支援センター

1. 日 時 令和3年2月25日(木) 14時～15時半
2. 場 所 上越市八千浦交流施設はまぐみ 2階
3. 参加人数 やちほ内科クリニック佐藤進一先生、薬剤師1名、サービス事業所2名、居宅介護支援事業所ケアマネージャー8名、小規模多機能型居宅介護1名、健康づくり推進課2名、上越地域在宅医療推進センター2名、(すこやかにくらし包括支援センター1名、ふもと地域包括支援センター6名) 17名
4. 内 容 テーマ「医療介護連携」
 - ①開会 挨拶 上越市すこやかにくらし包括支援センター
保健師長 佐藤麻由子様
 - ②八千浦地域の健診結果について 上越市健康づくり推進課
保健師 小黒未知留様
 - ③実態把握訪問から見える八千浦地区の高齢者の現状について
ふもと地域包括支援センター 管理者 清水知美
 - ④グループワーク 意見交換
「健康課題のある方の支援についての医療介護連携」
～Aさんの事例から～医療介護連携について考える
 - ⑤医師からの助言 やちほ内科クリニック 佐藤進一先生
 - ⑥閉会まとめ 上越地域在宅医療推進センター 相澤由美子様

5. 成果と考察

成果：

医療介護連携についてグループワークを行い話し合った。グループ内に多職種がそれぞれ入り、一緒に考えることでお互いの視点を確認することが出来た。食事面や受診、服薬、運動などの管理的な視点も挙げられた。視点を基に、介護支援専門員と医療介護職が専門的な立場で具体的な支援について話し合いを行い、新しい知識や資源等の情報交換をすることができた。また、医療連携では、医師と直接話しづらいと感じる介護支援専門員がまだまだいることも分かった。

MC ネットは全ての関係者と連携できていないものの、広がってきつつある事が分かり、地域連携連絡票の利用、FAXでの情報提供、受診同行・往診時の同席など様々な工夫をしながら、介護支援専門員が医療介護連携を積極的に進めている事も分かった。

考察：

今回、これまでの関りの中から、八千浦地区を選定し、そこに関わる医師、薬剤師、サー

ビス事業所、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所の介護支援専門員に参集頂いた。前半で地区担当の保健師から健診データを示してもらい、学童期からの生活習慣病のリスクや成人期の健診結果の特徴を知り、高齢期の介護予防の必要性を改めて確認できる良い機会になった。

日頃から、医療職を含め、関係者が顔の見える関係を築くことは大切である。地域関係者から、地域の特徴や課題を知ってもらう事で、今後の活動に活かすことができる。

アンケート集計に「医師との連携は敷居が高い」という意見もあったが、医師も地域で暮らす高齢者や支援を必要とする方の暮らしに目を向けられ、介護支援専門員や関係事業所へ労いの気持ちを持たれている事が伝わった。

今後も、医療と介護の連携がスムーズに行うことができるように、地域包括支援センターとして、このような機会を設けていく必要がある。

